

2年ぶりのバスハイクは好天に恵まれ、 歴史探訪と中華グルメに満足の日でした

日向洋美（文化交流部会長）

前日の寒さが一転した春日和の3月30日、文化交流部会では2年ぶりにバスハイクを実施しました。行先は横浜中華街、横須賀の戦艦「三笠(みかさ)」と猿島です。

コロナ対策のため人数は24人限定で、満開の桜を眺めながら中華街に向かいました。そこでの自由時間は約2時間。元町散策組やひたすら中華料理食べ歩き組等に分かれて過ごした後、美味しい中華料理のランチに参加者大満足の様子でした。

次は横須賀の戦艦「三笠」見学です。艦内では日露戦争(1904-1905)のビデオを観てから艦内を自由見学しました。若い方が「日露戦争のことは全く知らなかったのですが、ロシアは100年以上経っても同じ事をしているのですね」と話されていたのが印象的でした。悲しいことにタイムリーな企画となりましたが、ロシアの通信力が日本より劣っていたことも日本の接戦勝利の要因の一つと伺い、歴史は繰り返すと感じました。

「三笠」は英国の「ヴィクトリー号」、ボストンの「コンスティテューション号」と並ん



三笠公園で記念写真

で世界三大記念艦の一つです。他の2艦を見学した私は、内装や将校室の豪華さで「みかさ」が他の国の戦艦に格段に劣ることを知りました。自国で戦艦を作れなかった当時の日本は、同じ値段で大砲などを強化するため、内装にお金をかけられませんでした。日露両国とも、英国に軍艦を発注したのですが、贅沢な貴族の将校室を備えたロシアの軍艦より、軍事装備は「三笠」が勝っていたのです。

最後はフェリーで歴史遺産の残る無人島「猿島」に渡り、ガイドさんの案内で旧陸海軍の要塞を見学しました。長い間一般人の立ち入りが制限されていたためか自然が豊かでした。日本で最も古いレンガ造りのトンネルや要塞が新緑に溶け合い、現実離れした不思議な魅力を感じました。

帰りのバスでは、吉村会長の「江戸時代のSDGs」の楽しいお話を伺い、改めて日本人の賢さや先人の努力のお陰で今の平和な日本があることに感謝の気持ちを抱きました。お天気にも恵まれた一日、参加した会員の方々もとても満足された様子でした。



猿島の史跡を見学